

コハクチョウとコブハクチョウのペア

沢田 隆

945 - 0047 石川県羽咋市御坊山町 13 - 3

石川県羽咋市邑知潟は、コハクチョウの越冬と渡り中継地を兼ね備え、シーズン中、最多飛来数は、近年 2,000 羽～ 3,500 羽程度となる。越冬中の高圧送電線衝突落鳥死も多く、ケガ越冬個体も通年 5～8 羽程度は見られる。

この、潟に注ぐ河川敷で、2000 年 4 月 14 日、落鳥傷病越冬個体のコハクチョウと自然飛来個体のコブハクチョウの擬似繁殖行為が見られた。以前から 2 個体は、潟内でもペアスタイルや(図 1)、越冬コハクチョウ群と離れ河川敷に見かけるなど、行動の違いが有った。このペアが河川敷に葦やマコモの枯葉などで、直径 1.5 m 程度の円形マウンドを作り(図 2)抱卵スタイルが見られる様になった(図 3)。



図 1 ペアスタイル。

コブハクチョウは主に抱卵と巣の補修、コハクチョウは横で座っている姿が多かった。マウンド内には缶ジュースの空き缶が入っており(図4)、これを抱いていた様だった。その後、マウンド離れも多くなり、周辺で採食なども確認された。



図2 河川敷に作られたマウンド



図4 産座内に空き缶が



図3 枯れ草で巣を補修中のコブハクチョウ

その後もペア関係は長く続き、産座は増水で流される場合も多いが、毎年3月下旬から4月には潟内から移動、この付近で採食や巣作り行動が見られた。

だが、2008年春にはコハクチョウは見かけなくなり、コブハクチョウだけが周辺河川で見られるようになった。

この年の春、越夏傷病コハクチョウ達が田の苗を踏み荒らすとの事で一部が捕獲されている。